

なし管理情報 No.2

令和7年3月19日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター



1 開花予測

- ・現在、「幸水」は萌芽期に入っている（3/18時点）。
- ・開花始めは「豊水」が4/15、「幸水」が4/18で、平年に比べ2～3日遅い見込みとなっている。
- ・新潟気象台発表の1か月予報（3/13発表）では向こう1か月（～4/14）の気温は平年並みだが、3月は気温の変動が大きいと見込まれている。

【果樹研究センター開花予測（R7.3.17現在）】

年次	豊水	幸水
	開花始	開花始
R7 (予測)	4/15	4/18
R6	4/12	4/15
平年	4/13	4/17

※ R6 年値は果樹研究センター実測値
平年値は過去20年間のデータから算出



果樹研究センター
最新の開花予測



気象庁
2週間気温予報
(富山県)



気象庁
1ヶ月予報
(富山県)

2 病虫害防除

(1) 今後の防除

開花前後が黒星病の重要防除時期である。下記の時期を目安に、天候、生育状況に合わせて、遅れないように防除を実施する（なしの生育ステージは最終ページを参照）。

回数	散布時期 の目安	散布薬剤と希釈倍率	対象病虫害	10a あたり 散布量	実施日 (自己 記入)
1	3/24～26頃 りんぼう 脱落直前	デランフロアブル 1,000倍 マイリノー 20,000倍	黒星病、黒斑病、赤星病、 心腐れ症(胴枯病菌)	300 ℓ	
2	4/4～6頃 りんぼう 脱落期	トレノックスフロアブル 500倍 ダイアジノン水和剤34 1,000倍 マイリノー 20,000倍	黒星病、赤星病、黒斑病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類	300 ℓ	
3	4/15～17頃 開花直前	オンリーワンフロアブル 4,000倍 ベルコートフロアブル 1,500倍 マイリノー 20,000倍	黒星病、赤星病 黒星病、黒斑病、輪紋病、 うどんこ病	300 ℓ	
	3回目散布後 2日程度あけて	「二十世紀」に追加散布 ロブラル水和剤 1,000倍	黒斑病		

- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください。
- ・使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

(2) 黒星病対策

① 落葉処理の見直し

園地内に葉の形をとどめた落葉がみられる場合は、再度落葉処理を実施する。

実施時期：本格的に子う胞子の飛散が始まる前（3月中）に実施する。

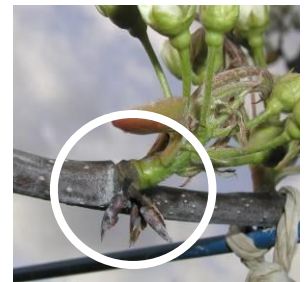
② 芽基部病斑の除去

芽基部病斑は、見つけ次第摘み取り、園外で処分する。

実施時期：人工受粉前から注意し、見つけ次第除去する。

③ 園地周囲の補正散布

薬剤のかかりにくい園地外周を中心に補正散布を徹底する。



黒星病芽基部病斑
(りんぼうが落ちない)

3 今後の管理

① 摘蕾

<ポイント>

- ・「幸水」の大玉生産のために、短果枝の花芽整理と、短・長果枝の摘蕾（芽たたき）を実施し、貯蔵養分の消耗を極力抑える。

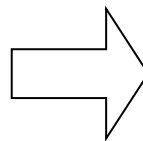
- ① 主枝、亜主枝の先端部（先端から 50cm 程度）は全て摘蕾する。
- ② 側枝の先端 2～3 芽は全て摘蕾する。
- ③ 予備枝に花芽が着生している場合、全て摘蕾する。
- ④ 着果させる花そうは、可能な範囲で出蕾期に芽たたきを行い 2～3 花減らす（写真 1）。
- ⑤ 子花を持った花そうは必ず子花部分を摘蕾する（写真 2）。



処理前



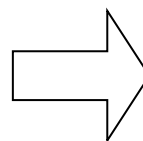
写真 1 摘蕾（芽たたき）



処理後



処理前



処理後

写真 2 小花の摘蕾（葉は残す）

②凍霜害対策

近年凍霜害が発生した園地や開花期に低温が予想される場合は、凍霜害対策として、事前に下記対策を実施し、被害の軽減に備える。

- ・雑草の草丈が長い場合は、短く刈り込む。
- ・冷気の通りを妨げる防風ネットや障害物等を除去する。
- ・開花直前又は開花中に被害を受けた場合は、残った健全花に人工授粉を徹底し、結実確保に努める。
- ・事前に下記の防霜資材を散布する。

＜各メーカーが目安としている防霜資材の使用方法＞

商品名	使用時期	倍率	回数等	10a あたり 散布量	備考
アイスバリア	発芽期～落花直後	250～ 300倍	制限 なし	300 ℓ	・植物に吸収させて耐寒性を高めるため、降霜の2～3日前に散布するのが良い。 ・効果は1週間程度（無降雨時）。
霜ガード	開花3～5週間前 ～開花期	50倍	3～4回 7～13日 間隔	300 ℓ	・機械油を散布する場合は、先に機械油を散布 ・石灰硫黄合剤との混用は不可 ・暖かい空気を資材に抱き込ませるため午後3時頃までに散布する。
	開花期～幼果期	50倍	10～13日 間隔		

※両資材とも農薬との混用散布が可能。

※肥料として登録されているため、倍率、回数に制限はありませんが、目安としている使用方法が変更になっていますので、ご注意ください。

＜凍霜害が起こりやすい条件＞

- ・午後6時頃の気温が10℃以下でかつ1時間に1℃以上の気温の低下がみられる晴天無風状況。
- ・開花直前から落果直後の幼果期にかけて、-1.8～-1.3℃の低温に1時間程度遭遇した場合。

＜お知らせ①＞

- ・次号は、4月15日頃の発行を予定しています。

＜お知らせ②＞

- ・受粉用花粉の確保にむけて、採取機器（特に開葯器）の動作確認を行っていない場合は、早めに動作確認を行いましょう。